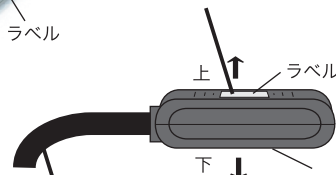


CS-550M本体取り付け上の注意点

本体（センサー）



本体のラベル面が必ず上向きになるようにお取り付けください。



本体から出ているコードが必ず下向きになるようにお取り付けください。
※コードを上向きに取り付けると本体内に水が入る恐れがあります。

故障かな？と思われる前に…

症状 警報待機のセットをした直後に警報が作動してしまう

確認事項 CS-550Mのセンサーは3Gセンサーという特殊なセンサーを採用しております。これは一般的な傾斜センサーとは違って、警報待機のセット時の車体の姿勢(位置情報)を記憶する仕組みとなっています。

警報待機のセットをした直後にLEDランプが異常を示す高速点滅をし、1分後に警報音が鳴り出した場合は、警報待機のセット時に記憶した位置情報から変化が起こったと3Gセンサーが判断した事になります。

この場合は車体の姿勢が変わらない状態で警報待機のセットをしてください。

特にサスペンションが沈んだ状態(バイクにまたがった状態等)で警報待機のセットをするとサスペンションが戻った際に車体の姿勢に変化が起り警報が作動します。

それでも警報待機のセット直後に異常を示す動作が起こる場合は、センサー本体を車体に対してタイラップなどで強固に固定してください。またセンサー本体とスピーカーの距離を離して取付けてください。

症状 バッテリー上がりの症状になってしまった

確認事項 警報待機のセットをしていないのにバッテリーが上がってしまったり、警報待機中に短時間でバッテリーが上がってしまった場合、センサー本体のレギュレーターが破損しています。

レギュレーター破損の原因は主に下記の2点が考えられます。

- [1] センサー本体の赤、黒のコードをバッテリーへ接続する際に1度でも＋を逆につないでしまった。
- [2] メインキーをOFFにした際に車両側で発生するスパイク。(尖った波形を持つ瞬間的な高電圧)

レギュレーターが破損しているかどうかの検査方法としては、警報待機のセットはせずにセンサー本体の赤線をバッテリーの＋ターミナルからはずし、電流計をバッテリーとセンサー本体の赤線の間につないで電流を測定してください。65mA前後流れている場合は異常です。正常値は1mA前後です。

異常の場合は修理が必要となります。「商品一式」「保証書」「不具合の内容を書いたメモ」をメーカーまでお送りください。